

日交研シリーズ A-754
平成 30 年度自主研究プロジェクト
コンパクトシティと交通政策の連携
刊行：2019 年 7 月

コンパクトシティと交通政策の連携に関する研究
A Study on Coordination between Compact City and Transportation Policy

主査 森本章倫（早稲田大学理工学術院 教授）
Akinori MORIMOTO

要 旨

自動車依存社会で助長された低密拡散型都市を、集約型都市構造に転換するためには、次世代交通システムがその役割を果たす可能性が高い。そこで、本研究ではこれまでのコンパクトシティと交通の関係を整理し、今後の都市政策と交通政策のあり方について検討することを目的とする。なお、研究の視点としてはコンパクト政策、スマート政策の双方の視点から集約・非集約エリアのあり方について議論した

主として以下の4つの視点からコンパクトシティにおける交通政策や ICT の活用による新しい街づくりについて多面的に検討した。

(1) 地方都市におけるコンパクトシティ政策の立案

地方都市として秦野市を事例に、地方都市の現状と課題を整理し、コンパクトシティ政策の推進に向けた検討を行った。小さな拠点の事例との比較分析を通して、地域の課題を整理し、住民に向けた分かりやすい説明資料を提案した。

(2) ビッグデータを用いたコンパクトシティの評価

コンパクトシティの政策評価として、携帯電話の基地局データを用いた新しい評価方法を提案し、その有効性や課題について検討を行った。特に滞留人口など1日の人の動きを詳細に把握することで、都市空間を動的に評価できることを明らかにした。

(3) 3次元CGを用いたコンパクトシティの可視化

3次元CGを用いて具体的な都市の集約エリアと非集約エリアを可視化し、その再現方法や内容等について、多様な評価主体から定量的、定性的な評価を行った。

(4) 物流からみた都市のコンパクト化とスマート化

都市計画の中に都市物流計画を位置づけ、物流がもつ基本的な機能や役割を整理した。そのうえで情報化の進展による物流の需給バランスの変化を指摘し、都市のコンパクト化やスマート化における課題と展望を示した。

従来からのコミュニティベースの計画立案を検討しながら、ビッグデータを用いたコンパクトシティの新しい評価方法や、CGを用いた可視化ツールの有効性を確認した。一方で、コンパクト化に向けた課題もいまだに山積している。コンパクトシティ形成のためには交通政策、物流政策と都市政策のさらなる融合が不可欠である。

近年、ICTの活用によるスマートシティが話題となっており、スマート化とコンパクト化が必ずしも同じ誘導効果を生まない可能性がある。今後、コンパクトシティとスマートシティの相互関係を多面的に検討する必要がある。

キーワード：コンパクトシティ、次世代交通、物流、スマートシティ

Keywords : Compact City, Advanced Transport, Logistics, Smart City